

* 今年もあと少しで終わろうとしているが、後世から見れば 2011 年はまさしく日本にとって戦後最大の危機の年と記憶されることになるであろう。3 月 11 日に起こった東日本大震災とそれに続く大津波の被害はすさまじく、ここに改めて被害に遭遇された皆様には心よりお見舞いの言葉を申し上げさせて頂く。震災から既に半年以上がたつが、まだまだ復興へ向けた課題は多い。本学会でも来年の 3 月号には震災特集としてその取組みを技術的な側面から紹介する予定である。今後も折に触れて復興に役立つような誌面の編集をしていくつもりである。

* さて、ここでは、改めて震災以外に 2011 年を振り返り、個人的に気になったことを列挙させて頂く。

* まずは、昨今のスマートフォン人気である。通勤途中でも若い人を中心にタッチパネルを操作する風景がよく見られるようになってきている。このような人気の大きな一因にタッチパネルの操作性の向上が挙げられることは間違いない。これも技術者の努力の賜物の一つであろう。

* 大きくて高臨場感を追求するディスプレイが本格的になってきたのも印象に残る 1 年であった。CEATEC2011 では、各主要 AV 機器メーカーの展示で 4K や 3D などの高臨場感を追求したディスプレイの展示が競い合うように展示されていた。また、NHK では、4K を超える 8K の解像度を持つスーパーハイビジョンの開発を推し進めており、究極の映像美を目指す試みはとどまるところを知らないようである。それらの映像美は一目瞭然でその迫力に圧倒される。ただ、これらの映像を楽しむためには、魅力あるコンテンツを供給する仕組みが大事であり、いかに効率的にかつ質の高いコンテンツを制作するかがこれからの大きな課題であろう。

* 2011 年は、テレビのデジタル化への完全移行の年でもあった。東北 3 県以外の地域については、アナログ放送が 2011 年 7 月 24 日に全て停止した。テレビ業界にとっては初めてのことでどんな事態になるか、正直戦々恐々だったが、予想していた状況よりは平穩にデジタル放送への完全移行が実現できたようである。今後はデジタル化のメリットを活用した、視聴者に喜んでもらえる放送サービスの

展開が待たれるところである。最近の、若者を中心とした人々のテレビ離れが顕著になってきている時代だからこそ視聴者にドーンとアピールする、いわゆるデジタル放送の特質を生かしたキラーコンテンツの出現に期待したい。

* ソーシャルネットワークの功罪が顕著になったのも 2011 年ではないだろうか？ Twitter や FaceBook に代表される SNS が大きく取り上げられ、一般の人までその存在が浸透した。いまや、SNS は単なる情報伝達ツールでなく、政治をも動かす一つの大きな力を持っていることが最近のニュースからもうかがい知れる。アラブ諸国で起きた政変は FaceBook などによる情報の連鎖的な広がり大きな原動力になったことは疑いの余地がない。折しもアメリカでは SNS での連携を通じ各都市でのデモ活動が勢いを増しており、今後の動向に目が離せなくなってきている。

* 最後に余り本会とは関係ないが、私が大変感動したことを付記させて頂く。それは「なでしこ Japan」の快進撃である。世界一である。とかく暗いニュースの多い 2011 年では世の中をパーッと明るくするニュースであることは間違いなく、来年のロンドンオリンピックの活躍も自然と期待してしまう。ニュースなどで紹介されている話から、余り恵まれていない環境で長年頑張り続け、その栄光を勝ち取ったと聞く。使い古された言葉であるが、努力と信じる力と不断の継続力が重要であることが思い起こされる。研究や技術開発でも同じことがいえると思うが、必ず成果を得るんだという信念とそれを続ける意志力は分野に関係なく成功の秘けつであることを思い起こされるような出来事であり、大いに励まされたものである。

* 以上、年の瀬の号の誌面を借り、2011 年を振り返るトピックを上げ、思うところを書かせて頂いた。読者の皆様にも今年を振り返り、それぞれにいろいろなことが思い起こされることであろう。流れた年月は取り戻すことはできないが、それらの出来事を振り返り未来に備えることは可能である。過去から十分な教訓を学び、来る 2012 年が皆様にとって良き年であることを祈願する次第である。

(編集特別幹事 苗村昌秀)